

冬期の円滑な道路交通確保に向けた 実証実験を実施します！

AIやICTなどの新技術等を活用した渋滞原因の把握、解析及び渋滞原因の解消作業の高度化・効率化に関する検証を行います。

実施期間／令和3年11月上旬～令和4年3月中旬

※ 交通規制等を伴うものではありません。

実施目的

市では、積雪による渋滞の早期解消等のため、道路状況の把握、維持管理のための作業指示、維持管理作業、そして作業結果の確認という道路メンテナンスの一連の流れを高度化・効率化するとともに、プラットフォーム(共通の土台(基盤)となる標準環境)の活用により各プロセスを一元的に集約することを目指しています。

今回の実証実験は、冬期における道路維持管理のプロセスの中で、現在多くのマンパワーに頼っており、高度化・効率化による効果が特に大きい、「道路状況の把握」及び「除排雪出動指令」に関して実施します。

実験①: MMS(移動計測車両による測量システム)による堆雪ボリューム・道路幅員減少率の算定による渋滞原因の把握、解析を行います。

⇒積雪・堆雪時の3次元道路基盤情報を利用し、職員が行っている除排雪作業指示タイミングの判断根拠について、「知」の数値化・視覚化を行い、除排雪作業指示のAI化の可能性を検証します。

実験②: ライブカメラ設置による交通確保の検証

⇒職員による道路パトロールの代替として、ライブカメラによる道路状況をモニタリングし、交通渋滞の監視、除排雪作業指示判断の検証と作業結果の確認を検証します。

実験③:市民からの情報収集の仕組みの構築に向けた検証

⇒スマートフォンなどによる位置情報や現場写真付で相談を受け付けるアプリ「まちレポあおもり」を活用して提供される道路情報により、迅速な除排雪作業へつなげるため、道路管理者による道路の巡視を住民との協働により行うことが可能かどうかを検証します。

実験④:除排雪作業指示のデジタル化、除雪状況の可視化の検証

⇒除排雪プロセスに関わる情報を一元的に集約するPF構築に向け、まずは現在行っている電話やFAXによる市から除排雪事業者への出動指令発出のデジタル化を図ります。

⇒市民への交通手段や出発時間など交通行動の変更を促すため、生活路線などの除排雪作業の状況を公開するための方策を検証します。

【実験位置図】



「豪雪地帯における冬季の円滑な道路交通確保に向けた実証実験」

○実施主体/あomorismartcity協議会 代表 香取 薫(青森公立大学長)

(構成団体)青森公立大学、青森市町会連合会、特定非営利活動法人 青森ITSクラブ、株式会社NTT東日本-東北 青森支店、東青除排雪協会、株式会社パスコ、国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所(オグザバー)、青森県東青地域県民局地域整備部道路施設課(オグザバー)、青森市都市整備部

○問い合わせ先/青森市都市整備部道路維持課雪対策室 実証実験担当 TEL:017-752-8584